

## 様式第1号

## 会 議 錄

会議の名称	令和7年度 第2回 所沢市地域福祉推進委員会
開催日時	令和7年11月28日(金) 午前10時00分~
開催場所	こどもと福祉の未来館 多目的室1・2号
出席者の氏名	中島 修(委員長)、赤坂 悅(副委員長)、荒井 由佳子、大倉 美奈子、高橋 祐二、吉田 早苗、村澤 洋、渡邊 雅浩、大島 隆代、高柳 進、小松 君恵、堀 謙作、納富 信夫
欠席者の氏名	古賀 真美子、田中 保三
説明者の職・氏名	地域福祉センター 主査 新井 一也、主任 飯塚 貴之
議 題	<p>1 開会      2 議題      (1)市民意識調査の進捗状況      (2)第3次所沢市地域福祉計画の振り返り      (3)第4次所沢市地域福祉計画の構成等について      (グループワークを含む)      3 その他      4 閉会</p>
会議資料	資料1-1 市民意識調査 速報値概要 資料1-2 単純集計表(14歳~18歳) 資料1-3 単純集計表(19歳以上) 資料1-4 単純集計表(団体) 資料1-5 市民・団体アンケートの注目点 資料2 地域ヒアリング   結果概要 資料3 学校ヒアリング質問内容 資料4 第3次地域福祉計画の施策の方向性と取り組み
担当部課名	福祉部 地域福祉センター 電話04(2922)2115 越智福祉部長 大館福祉部次長 木下センター長 新井主査 伊藤主査 飯塚主任

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	<p><b>1 開 会</b></p> <p>開会を宣言した。</p> <p>令和7年6月1日付けて委嘱された堀委員の委嘱状を交付した。</p> <p>欠席者の報告 古賀委員、田中委員</p>
中島委員長	<p><b>2 開会挨拶</b></p>
事務局	<p>傍聴希望者の有無 3名</p> <p>資料の確認 配付資料を確認した。</p>
事務局	<p><b>2 議 題</b></p> <p><u>(1) 市民意識調査の進捗状況</u></p> <p>資料1-1～1-5、2、3により、市民意識調査の進捗状況を報告。</p> <p><b>【概要】</b></p> <p>前回説明した4項目に加え、子どもの意見を反映するため「学校ヒアリング」を追加し、多面的な視点から地域福祉の実態把握を進めている。市民・団体アンケートは対象数を調整して実施し、統計上十分なデータが得られた。</p> <p>市民アンケートでは、【14～18歳】の災害に関わるボランティアへの関心の高さや動画媒体による情報収集が特徴としてみられた。【19歳以上】では地域活動への参加率や相談窓口の認知度は低く、孤独感が一定程度存在することが明らかとなった。また、外出頻度の分析から広義のひきこもり群が一定割合にのぼるなど、地域のつながりの希薄化も確認された。</p> <p>団体調査およびヒアリングでは、担い手不足や府内連携の不十分さが顕著であり、地域課題に対する横断的な支援体制の構築が求められている。地域ヒアリングからは、早期発見と信頼関係の重要性、世帯単位の包括的支援、支援者の連携強化が鍵であるとの傾向が示された。</p> <p>学校ヒアリングでは、若年層から前向きな地域参加意識がみられる一方、情報発信の不足や地域との関わりの希薄さが課題として挙がった。</p> <p>府内の担当者部会では、「関係機関が横断的に話し合える場所や仕組みが必要」、「個人情報を共有できる会議体や仕組みが必要」、「SNSの情報発信を積極的に」、「人材・連携不足があるので研修やコミュニケーションが必要」という意見が出ている。</p> <p>今回の調査結果は情報量が多いが、地域の実態を示す重要な示唆が多く含まれている。</p>

	地域のつながりや連携不足、若者の参加意欲や情報収集の特徴など、実際に聞いてみて初めて分かる点が多くかった。また、孤独・孤立や引きこもりの割合が国の推計より高い傾向にあり、その背景を丁寧に探る必要がある。これらを踏まえ、委員からの質問や意見を求めたい。
小松委員	男女比を意識する必要はあるか。
中島委員長	最近はジェンダーの観点から、男女については丁寧に扱う必要がある。性別は聞いていいるので、クロス集計は可能だと思うが、いかがか。
事務局	今後クロス集計を進めていくなかで、男女比などの結果を報告したい。
中島委員長	調査票を作る際、性別に関する問い合わせについては議論になったが、男女の傾向があるかもしれないことから、入れることとした。
村澤委員	若年層の YouTube 視聴が多い点について、海外では脳への影響の懸念から規制もあり、長時間視聴は情報の偏りを招く可能性があると感じている。特に、所沢市で引きこもりが多い状況と重ねると、動画視聴が孤立や偏った思考を助長していないか懸念される。 また、他市では多文化背景をもつ中高生が多く見られることから、外国籍児童生徒を取り巻く学校環境にも関心を持っている。
中島委員長	YouTube 視聴の多さは全国的な傾向であり、大学生もテレビではなく YouTube を主な情報源としている。所沢市の状況も全国のデータと同様と考えられる。また、外国籍住民についても所沢市で多様な背景の子どもたちが生活しており、地域として多文化化が進んでいることがうかがえる。
高橋委員	地域ヒアリングの結果の4ページ目「5.まとめ」で、包括的な支援体制の構築が必要という説明があったが、補足説明をしてほしい。
事務局	3ページ、2の(1)「世帯全体を見据えた包括的支援の必要性」にまとめている。「課題が個人の問題ではなく家族全体に及んでいる」、「どの機関が舵を取るかを明確にし、関係機関が情報を共有しながら支援を調整する仕組み」、「包括的な支援窓口」や「世帯全体を見守るコーディネーターの必要性」など挙げられている。
中島委員長	地域ケア会議で日頃議論されている内容とも重なるが、地域ヒアリングの3ページ以降には重要なキーワードが多く示されており、「2.主要な共通課題の整理」は計画づくりの重要なエビデンスとなると感じている。特に、「(2)孤立家庭等の早期発見つなぎの仕組み」で示された「気づきの遅れ」は、地域支援における大きな課題である。
高柳委員	秋祭りでは小中学生がボランティアとして関わってくれた。一方で、挨拶をしない人の

	<p>増加など、地域の人間関係に課題も感じている。町会活動を広げることで、こうした地域課題の改善につながる可能性があると考えている。</p>
中島委員長	<p>学校ヒアリングで中学生から「お祭りなどがコロナでなくなったので復活してほしい」という意見があり、また災害のことにもとても关心が高い。自治会長としてのお考えを聞かせてほしい。</p>
高柳委員	<p>清掃活動などで役員だけにお茶やお菓子を出す慣行は見直し、参加したボランティアへ感謝を示すことが重要だと考えている。互いを尊重し合い、支え合う関係づくりが何より大切である。</p>
中島委員長	<p>地域でボランティアとして関わってくれる住民に対し、自治会長として丁寧に配慮しながら支えているということである。花園町会の盆踊りでは、テント内に誰でも自由に座れる椅子を設け、新しい住民も参加しやすくしており、非常に良い取り組みだと思う。</p>
大島委員	<p>アンケートは非常に示唆に富んでおり、広義の引きこもりや家族の不安が多い実態が確認できた。今後、相談先の認知度との関連を分析すると有意義だと感じている。また、震災復興の調査で「まちが明るくなった」と感じる人ほど立ち直り感が高かったという結果を思い出し、地域の環境が住民の心に影響を与える可能性を改めて認識した。</p>
中島委員長	<p>引きこもりは狭義・広義とも注目すべきデータであり、今後はクロス集計を含め丁寧に分析したい。学校ヒアリングでは中学生の言葉を重く受け止め、街灯など安心・安全に関する声も含め、多様なメッセージを的確に拾っていく必要がある。現時点は単純集計段階であるため、男女差も含めテーマを整理し、今後分析を深めていきたい。</p>
<p><u>(2) 第3次所沢市地域福祉計画の振り返り</u></p>	
<p>資料4により、第3次所沢市地域福祉計画の令和6年度の実績を報告。</p>	
事務局	<p><b>【概要】</b></p> <p>令和6年度実績として、前回報告できなかった障害者就労施設等からの物品調達額が追加され、実績値15,611,433円、達成率100%となった。これに伴い、計画全体の令和6年度達成率は83.2%から83.6%へと上昇した。</p> <p>ただし、第3次計画の振り返りにおいては、現行の指標が「取り組みの方向性」や「主な取り組み」と十分に対応しておらず、具体的な事業内容が見えにくいという課題がある。</p> <p>このことから、各課が実施している事業を照会したところ、概ね対応は見られたものの、一部項目では回答が得られず、担当課の照会方法では拾い切れていない可能性が示唆された。今後、再度照会を行い、次回会議でも改めて報告する予定である。</p> <p>また、次期計画では、どの課がどの事業を担うのかが明確になるよう、担当課を計画上に明記することも考えている。</p>

中島委員長	<p>第3次計画を振り返って新しい計画を作っていくことが大事である。担当課を明確にしないと具体的な取り組みにつながらないし、評価も曖昧になってしまうので、非常に丁寧に作業していただいた。バリアフリーや広報などの課で対応しているかが難しい。特になれば、次の議題に進む。</p>
事務局	<p><u>(3) 第4次所沢市地域福祉計画の構成等について(グループワークを含む)</u></p> <p>スライド資料により、第4次所沢市地域福祉計画の構成等に対するグループワークの実施方法について説明。</p> <p><b>【概要】</b></p> <p>第4次地域福祉計画の章立てについては、第3次計画から大きく変更しない方針であるが、高齢・障害・児童など共通して重点的に取り組む事項を第1章に整理すること、社協の活動計画と一体的に進める趣旨を明記すること、成年後見計画・再犯防止計画を包含する計画であることを示すことの3点を新たに位置づける必要がある。章ごとに検討課題を設定し、委員の意見をいただきながら進めていきたい。</p> <p>圏域設定については、第3次計画で用いた「中学校区（15）」を基準とした考え方をそのまま踏襲することには課題がある。特に、中学校区を「高齢者支援・障害者支援・子育て支援等の相談拠点との連携単位」とする点は、現状にそぐわない可能性があるため見直しを検討したい。</p> <p>第4次計画では、地域包括支援センターや民生委員の区分（14）をもとに「福祉圏域」として再設定する案を考えている。圏域数についても、他市では3～4区分が一般的であることから、現在の5区分が適切かどうかを引き続き検討する必要がある。</p> <p>また、地域福祉活動推進会議では、CSWの担当する11圏域が適切という意見や、行政区を基準にしたほうが支援活動を行いやすいという声、市民に分かりやすい表記が望ましいなど、多様な考え方が示された。これらを踏まえ、今後の計画策定に向けて、圏域の在り方について幅広く意見を伺いながら整理していきたい。</p>
中島委員長	<p>圏域の考え方は地域福祉計画の重要な論点であり、所沢市ではこれまで11行政区、14福祉圏域、15中学校区のいずれを採用するか検討を重ねてきた。現在は14福祉圏域案と11行政区案が主な選択肢となっている。若い世代や新住民には区域意識が薄いとの指摘も踏まえ、生活者の視点から意見を求める。</p>
赤坂副委員長	<p>松井地区では東西に分かれしており、まちづくりセンターが西側に位置しているため、東地区の住民は利用しにくく、身近な場所にまちづくりセンターがあることが望ましいとの声もある。</p>
中島委員長	<p>まちづくりセンター自体を増やしてほしいという意見も重要である。所沢市ではこれまで、まちづくりセンターを拠点とする11区域を基本としてきたが、第1次計画では在宅介護支援センターのエリアと合わせて14区域とした経緯がある。第4次計画では、基本的な構成は第3次計画を踏襲する考えである。</p>

事務局	<p><b>【概要】</b></p> <p>第4次地域福祉計画の基本理念については、現行の社協「WITH」と市「SMILE」を組み合わせるだけでは長文化し分かりにくくなるため、両計画の一体化にふさわしい、短く理解しやすい理念を新たに検討する必要がある。これに向け、委員によるグループワークで意見をいただきたい。</p> <p>グループワークでは、まずアンケートやヒアリング結果を踏まえ、第4次計画で特に重視すべき課題とその理由を整理する。そのうえで、課題に対応するキーワードを抽出し、その後の基本理念案の素材として活用する。これらのキーワードを基に、事務局で基本理念のたたき台を作成し、次回以降の会議で候補を提示する予定である。</p>
中島委員長	<p>こういう課題を計画に盛り込んでほしいという声をぜひ挙げてほしい。</p> <p>(グループワークの実施)</p>
中島委員長	それではこちらのグループから1分ずつ発表をお願いする。
グループC	テーマ出しの中で、孤独・孤立や担い手不足、連携強化が挙がった。一人暮らしの高齢者が多く、最近、近所の人が倒れ、誰も気づかなければ大変なことになっていたという事例があった。日ごろの助け合いや近所のつながりが大事。児童館がどこハピという名前になり、中高生も来られるようになったことから、連携の強化や受け皿が大事。所沢市の不登校率は国の数値より低いにもかかわらず、19歳以上になると増加する理由を今後分析してほしい。キーワードは、「どの世代も参加できる」、「セーフティーネット」、「誰か、何かとつながる」、「自分らしく」という言葉が挙がった。こども食堂や児童館なら行ける、多世代がつながれる、日常的な助け合いが必要ということが挙がった。
グループB	テーマ出しでは、主に孤立・孤独が重要視されていた。防災、防犯、声をかけたときに知らない顔をされる、関心がない、地域ヒアリングにもあった気づきの遅れ。現場の方もそういう状況に慣れてしまっていることがDVや殺人など重大事件につながってしまっているので、慣れが課題として出てきた。キーワードとしては、他人と会わないうことが孤立・孤独につながるということで「人ととのつながり」、「声かけ」、交流する一步を進めるための「挨拶」、勇気を持って声かけ、関心を持つことが出た。
中島委員長	孤独・孤立に加え、関心、気づきというキーワードが出てきた。Aグループお願いする。
グループA	テーマ出しよりキーワードを重点的に検討した。キャッチャーなワンフレーズが必要ではないかということで、「挨拶」が市と社協の両計画にも入っている「支え合い」につながり、それを実行する「地域の醸成」とつながるのではないかという意見が出た。また両計画にある「自分らしく」、「支え合う」、市外から見て所沢市がどう見えるか、どう見られたいかということを中心に、課題もここにつながるのではないかという意見や、現行計画の「WITH SMILE」はキャッチャーでいいのではないかという意見があった。

中島委員長	<p>地域が外からどう見えるか、どう見られたいかという視点は新しい発想であり、新しい住民を呼び込む上でも重要である。所沢に住みたいという視点と、実際に住む市民の意識の両方を考える必要がある。「WITH SMILE」はキャッチャーな表現として大切にすべきとの意見があった。続いて、施策の展開について事務局から説明を求めたい。</p>
事務局	<p><b>【概要】</b></p> <p>第4次地域福祉計画の施策体系については、第3次計画の重点施策 A～C・基本方針～という構成を見直し、よりシンプルで分かりやすい枠組みとする方向で検討している。基本目標を3～4程度に整理し、その中で特に重点となる事項については「ピックアップ」などの明確な表示を設けることを想定しており、これは社協の活動計画の構成を参考にしたものである。また、施策の中身の構成は「市が行うこと」「社協が行うこと」「地域が担うこと」に対応づけ、役割分担を示す形としたい。</p> <p>中身の構成案については、今後文言整理等を進める予定であるが、市・社協・地域の3者が縦割りに見えないよう、輪になって地域福祉を推進する姿が伝わる表現が必要との意見が社協側からも寄せられている。市民が具体的な取り組みのイメージを持てる内容となること、現行の地域福祉活動計画の分かりやすさを活かすことなども重要である。これらを踏まえ、施策体系の整理に向けてグループワークで意見をいただきたい。</p>
中島委員長	<p>市の地域計画と社協の地域活動計画を一体化するというのが今回のテーマである。どのように計画の形を作ったらいいか、どう表記したらいいかご意見をいただきたい。</p>
(グループワークの実施)	
中島委員長	<p>では、今回はBグループからお願いする。</p>
グループB	<p>重点施策について、中に入れ込んでいくという事務局提案が分かりやすくていい。内容や文章構成も含めて、文字量を減らしつつ分かりやすい内容にしたほうがいい。社協の計画もそうだが、イラストなどを用い、どのような目標や方針がどこの項目と紐付いているか分かりやすくすることと、言葉も専門家向けではなく、地域の人たちが見て分かる言葉を使うといい。項目の内容は、「お祭り」など具体的で分かりやすい項目がいいのではないかという意見が出た。</p>
グループA	<p>重点施策について、事務局案の変更として、市の取り組み、社協の取り組みを明確化するのが非常に分かりやすいのではないかという意見があった。ただ、前提として所沢市がそもそも何をしていて、社協が何をやっているのかということをどれだけの市民が知っているのか分からないところもあるので、まずそこを図式化してはどうかというご意見があった。市民が置いてけぼりにならないよう、「市民」というワードを冒頭に持ってきて、ご覧になった方が自分ごとと思えるような作りにしたらいかのではないかという意見が出た。</p>

中島委員長	これまでこんなことに取り組んだということが分かるような工夫をしていきたい。
グループC	重点施策については、提案のとおりピックアップとして入れる方がわかりやすいという意見があった。各項目の文章構成について、人ごとにせず自分ごとにするためにも、「こども食堂」など具体的に書くことで、自分ならこれに参加できるという中高生でも分かるような入り口を作つてあげられたらという意見が出た。
中島委員長	市民が見たときに自分でもできそうだと思えるような書き方を工夫しようというアイデアだ。それでは続いて取組事例の説明をお願いする。
事務局	<p><b>【概要】</b></p> <p>第4次計画の取組事例の整理にあたっては、第3次計画で一部の項目について担当課から回答が得られなかつた点を踏まえ、事業の実施状況が把握しやすい構成へ見直す必要があると考えている。具体的には、施策の方向性は「地域の人々がより良い福祉サービスにアクセスできるようにする」といった抽象度のある記述としつつ、取組事例の欄では、具体的な事業名や事業内容を明記し、併せて担当課を記載する。この方法により、事業の実施主体が不明確となることを避け、計画の振り返りや進捗管理がより確実に行えるようにしたい。これらの点について、委員から意見をいただきたい。</p>
中島委員長	今後の計画では、このような形で掲載し取り組んでいく考えであり、作成に向けた分かりやすいイメージとして示している。特に「取組の事例」を具体的かつ分かりやすく示すことが重要である。続いて、地域福祉計画に成年後見制度利用促進計画および再犯防止推進計画を包含する点について、事務局から説明を求めたい。
事務局	<p><b>【概要】</b></p> <p>第4次地域福祉計画では、成年後見制度利用促進基本計画および再犯防止推進計画を包含する構成とする方向である。成年後見制度の計画は、第3次計画では別章としていたが、第4次では基本施策の中に組み込み、「権利擁護の推進」等の項目に位置づけた上で、成年後見制度利用促進基本計画のページを設ける形式を想定している。両計画の構成を揃えるため、「背景」「現状と課題」「施策と目標」「取組内容（市・社協の取組）」という統一的な流れを用いる予定である。</p> <p>成年後見制度については、成年後見制度推進委員会で検討を進める想定である一方、再犯防止計画は審議会等の検討組織が存在しないため、本委員会での審議を行う必要がある。必要に応じて、関係機関やキーパーソンから専門的知見を得ることも検討したい。これらの進め方について、委員から意見を伺うものである。</p>
中島委員長	成年後見制度利用促進基本計画では、近年、身寄りのない高齢者の終活や未成年後見人の問題など、成年後見の枠組みだけでは捉えきれない重要な課題が浮上している。また、再犯防止については、年金の少ない高齢者や障害のある人が、凶悪犯罪ではなく生活困

	<p>難を背景に刑事司法に至るケースがあり、福祉の視点で検討する必要がある。保護司の参画も得ながら、少年少女の更生も含めて考えていくことが重要である。</p>
大島委員	<p>これから非常に大事になってくるところだ。取組の事例を丁寧につくっていく必要があると思う。</p>
中島委員長	<p>再犯防止計画については、市民にとって分かりにくく疑問を持たれやすいため、導入部分で分かりやすく説明する文章を入れるよう事務局と調整している。地域福祉計画に再犯防止計画を位置づける理由として、対象となる人の多くが高齢者や障害のある人であり、福祉的支援が重要である点を丁寧に伝えたい。成年後見については、成年後見制度の委員会で議論を進める考えである。</p> <p>本日の議題はこれで終了となる。盛りだくさんの内容だが、ご協力いただきありがとう。事務局にお戻しする。</p>
高橋委員	<p><b>3 その他</b></p> <p>【社協配付物について】</p> <p>以下の配布物について高橋委員から説明があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社協インスタグラムについてのチラシ</li> </ul>
事務局	<p>【次回会議日程】</p> <p>令和8年1月30日(金)、午後2時~、未来館多目的室3・4号にて開催</p>
赤坂副委員長	<p><b>4 閉会挨拶</b></p> <p>赤坂副委員長が閉会の挨拶をした。</p> <p><b>5 閉　会</b></p>